

解説

附属中学校 3 年英語

指導案タイトル：Reading を Writing につなげる授業“The Tanabata Star Festival”

授業者：林多恵子 教諭

解説タイトル：

願いを言葉にのせて創造する— 英語授業における「創造的思考力」育成の実践

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

「Reading を Writing につなげる授業“The Tanabata Star Festival”」では、外国人向け観光ウェブサイトの記事を基に作成された英語教材を用いて、七夕の由来、歴史、文化的背景、そして短冊の五色（赤・青・黄・白・黒）に込められた意味を学ぶ。生徒にとって身近な季節行事を取り上げることで、言語活動への関心を高め、英語力のみならず、文化的理解と自己表現力の育成を同時に図る構成となっている。

本授業を通じて育成されるお茶の水女子大学コンピテンシー10 の一つが「創造的思考力」である。創造的思考力とは、得られた知識や経験に基づいて新たな発想を生み出し、自分なりの視点から価値あるアイデアを創造する力を指す。本授業では、七夕の知識を得たうえで、自らの願い事を英語で表現するという活動を通して、創造的思考力が育まれている。特に注目すべきは、短冊の色の意味を踏まえて「自分の願いにはどの色がふさわしいか」を生徒自身が選択し、短冊に英語で願いを書き表す活動である。この活動においては、自分の思いや目標を英語で言語化し、色との関連づけを通して論理的かつ創造的に表現することが求められる。また、本授業では、創造性を高めるために他者と共有する活動が取り入れられている。生徒が班内で互いの願い事を共有することで、自己と他者との価値観の違いを認識し、多様な発想に触れる機会が提供されている。さらに、活動の最後には日本語による振り返りの時間が設けられ、新たに学んだ内容や印象に残ったことを言語化することで、学習の定着と内省が図られている。

このように、本授業は季節行事という身近な題材を通して、英語を「学ぶ」から「使う」へと発展させる実践であると同時に、創造的思考力というコンピテンシーの育成を意図的に組み込んだ設計となっている。伝統文化に関する知識を取り入れながら、自分自身の願いや価値観を英語で表現するというプロセスは、教科学習と汎用的スキル形成の両面から意義のある学びの在り方を示しているといえる。